**第２１回前橋市産業振興ビジョン協議会　議事録**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 産業振興ビジョン協議会 | 令和４年１１月２５日（金）１０：００～１１：４５ | 前橋市役所１１階南会議室 |
| 出席者 | 【委　員】吉田委員長、石川副委員長、足立委員、松田委員、細谷委員、善野委員、須田委員、狩野委員、島田委員、唐沢委員、堤委員、稲田委員、増田委員、西巻委員　計１４人【事務局】木村産業経済部長、吉野産業政策課長、大谷副参事、細野室長、手嶋副参事、松澤にぎわい商業課長、宮内課長補佐 |
| 欠席者 | 植木委員、魵澤委員、橋本委員、吉澤委員、茂木委員、宮崎委員　計６人 |
| 議題 | １　開会２　委員長挨拶３　新委員紹介４　議題　　　産業振興ビジョン令和２年度改定版　各施策の進捗状況について５　その他　　　次回協議会日程　　　委員改選６　閉会 |
| 配布資料 | ・次第・委員一覧・席次表・資料１　各施策の進捗状況【令和４年９月末時点】・資料２　個別事業の概要・資料　　産業振興ビジョン（概要版） |
| 会議内容 | **【吉野課長】**皆様、おはようございます。定刻前でございますが、委員の皆様、お揃いになりましたので、ただ今から第２１回前橋市産業振興ビジョン協議会を始めさせていただきます。新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりまして長らく本協議会は対面での開催をしておりませんでしたが、この度の皆様には、お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は前橋市産業政策課長の吉野と申します。本日進行を務めさせていただきますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。それでは、協議会開催にあたりまして、吉田委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。**【吉田委員長】**おはようございます。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。久しぶりの協議会ですけれども、だいぶメンバーも変わったようですので、新しく委員になられた皆さん、よろしくお願いいたします。先日の市長の講演会で「めぶくグラウンド構想」というのがありまして、目の見えない人は信号で目が見えるようになるという、非常に元気になる世になるというお話が講演中にありました。さりとて便利になりましても、生活が安定しなければならないという風に私は思っておりますので、ぜひ、産業をさらに振興させて安定した社会にしていきたいという風に思いますので、この協議会はますます重要になってくるという風に思っております。先日は下話の時に少し注文しましたが、今日（の資料１に）ＡＢＣという評価がある。これは補助金の支給した率でＡＢＣが付いているという状況ですので、補助金支給後にどういう効果があったのかという評価をしてもらいたいという話を事務局にしてあります。委員の皆さんにはそういった点でご意見を頂ければと思いますので、よろしくお願いいたします。今日は、よろしくお願いいたします。**【吉野課長】**ありがとうございました。続きまして、前橋市の産業経済部長の木村よりご挨拶申し上げます。**【木村部長】**前橋市産業経済部長の木村と申します。吉田委員長、また石川副委員長はじめ、委員の皆様には、お忙しい中、お集まりをいただきまして大変ありがとうございます。現在の産業振興ビジョンの計画期間が令和２年度から令和６年度までの期間になっておりまして、ちょうどこの令和４年度はその中間点にあたります。本日は議題としても掲げてありますように、各政策の進捗状況について、今日はご報告をさせていただきながらご意見を賜りたいという風に思っておりますが、市内、産業界、市内のみではないですけれども、恒常的な人材不足に加えまして、ここ数年間のコロナ禍、さらに昨今では、原材料高、エネルギー価格の高騰ということで非常に打撃を受けているという風に認識をしております。そうした中で、本市としては、行政の立場から、省エネに向けたエネルギー転換、それとＳＤＧｓにちなんだ地球環境の保全いう立場から、年度末に迫ってまいりましたけれども、これから様々な事業を展開していく予定であります。今日のこの協議会では、それぞれの立場からご意見をいただきながら、これからの事業展開、産業界への支援策につなげていきたいという風に考えておりますので、本日は、どうぞよろしくお願いをいたします。**【吉野課長】**ありがとうございました。続きまして。昨年度から本年度にかけて新たな委員となられた方から自己紹介をいただきたいと存じます。なお、本紹介を以て新たに加わる委員さんへの委嘱とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。なお、任期は来年３月までとなりますが、何卒よろしくお願いいします。では、名簿順に上の方から。まず、群馬県信用保証協会専務理事　松田様、よろしくお願いいたします。**【松田委員】**はい、ご紹介にありました群馬県信用保証協会　松田と申します。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。**【吉野課長】**ありがとうございました。続きまして群馬県立産業技術センター所長　細谷様、お願いいたします。**【細谷委員】**群馬県立産業技術センターの細谷でございます。よろしくお願いいたします。**【吉野課長】**ありがとうございました。続きまして前橋工科大学副学長　善野様、お願いいたします。**【善野委員】**はい、前橋工科大学の地域連携担当の副学長をしております善野と申します。本日はよろしくお願いいたします。**【吉野課長】**ありがとうございました。続きまして厚生労働省前橋公共職業安定所ハローワーク前橋所長須田様、お願いいたします。**【須田委員】**厚生労働省前橋公共職業安定所ハローワークまえばし所長　須田と申します。どうぞよろしくお願いします。**【吉野課長】**ありがとうございました。続きまして連合群馬前橋地域協議会議長　島田様、よろしくお願いいたします。**【島田委員】**連合群馬前橋地域協議会で議長を務めさせていただいております島田と申します。私たちは労働組合の団体でございます。個人的には、済生会病院というところで勤務しております。本日はよろしくお願いいたします。**【吉野課長】**ありがとうございました。続きまして前橋商工会議長専務理事　稲田様、よろしくお願いいたします。**【稲田委員】**はい。前橋商工会議所専務理事の稲田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。**【吉野課長】**ありがとうございました。それではここから議事に入りたいと思います。議事につきましては、吉田委員長さんを議長として進行をよろしくお願いいたしたいと思います。吉田委員長、よろしくお願いいたします。**【吉田委員長】**それでは議事に入らせていただきます。次第に沿ってやりたいと思います。次第の「４　議題」について、事務局より説明をお願いします。**【大谷副参事】**産業政策課の大谷です。初めに私の方から説明をさせていただきます。申し訳ありませんが、座って説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。それでは、議題１の各施策の進捗状況についてご説明をいたします。資料１の「令和２年度改定版　前橋市産業振興ビジョン各施策の進捗状況」をご覧いただきたいと思います。令和４年９月末時点ということで、対応を整理したものとなります。なお、併せてお配りしております資料２につきましては、この資料１に記載されました個別事業の制度の概要等を表したものとなりますので、参考にご覧いただければと思います。それでは初めに１ページでございます。産業振興ビジョンの目標数値を記載した一覧表となっております。今回のビジョンにつきましては、令和２年度から５年間の計画となっておりますので、令和６年度における目標数値となるものです。戦略１の「既存産業の総合的・実効的支援」以下各戦略におきまして、表の１番右側が目標の数値となっております。それに対しまして、真ん中の太枠で囲ってある部分が直近の状況でありまして把握可能な数値を記載しております。ご覧いただいてお分かりになりますように、社会経済環境の変化ですとか、また新型コロナウイルス感染症の長引く影響等も受けておりまして、目標数値に対して直近の状況は大変厳しい数値が並んでおります。これにつきましては、今後も委員の皆様のご意見等いただきながら各取り組みを推進していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。その具体的な取り組みが２ページ以降となりますので、２ページをご覧いただきたいと思います。各取り組みの進捗状況の一覧ということでございまして、各施策の方針別に進捗状況を評価しております。最初に委員長からお話があった通り評価が甘いのではないかというところのお話もありましたけども、一旦はこのような形で整理をさせていただいております。全体評価といたしますと、１番上の欄に記載されておりますように、Ａの「おおむね順調に進んでいる」が８施策、Ｂの「少し遅れている」が１３施策、このように整理をさせていただきました。続いて具体的な中身としまして、３ページをご覧いただきたいと思います。ここからは施策別の概要説明となりますが、項目が多数ありますので、主なものについて説明をさせていただきたいと思います。なお、説明につきまして、事業担当のそれぞれ係長から説明申し上げますので、内容によっては項目が前後するところもありますけれども、ご了承いただきたいと思います。それでは、初めに３ページの１－①施策の方針「中小企業小規模事業者の資金繰り支援施策の推進」でございます。表中の各個別事業の実績の（３）経営安定資金、この令和元年度実績と令和２年度実績と書いてありますけれども、その実績が大変大きくなっております。これについては、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で事業者の経営を支えるため、保証料及び利子が実質０円となる融資を実施したものでございます。ただし、現在、その返済が始まる中で、返済困難な厳しい経営状況にある事業者も出ているということも伺っております。この辺につきましては、皆様との情報交換をさせていただきながら、今後の対応も検討していきたいと考えております。続いて（１）の小口資金につきましては、先ほどのコロナ資金（経営安定資金）の活用により利用が少し減少しておりましたけれども、融資の利用が戻りつつある状況です。これにつきましては、保証料の全額補助を引き続き実施しておりますので、そうした面で事業者の資金需要に応えているものと考えております。続いて、４ページに移りまして、１－④施策の方針「事業所の生産性の向上に関する支援」でございます。各個別事業の実績欄（２）のＤＸ推進補助金につきましては、本年度から名称変更した取り組みであり、令和３年度まではＩＴ化推進補助金としてパソコンの更新費用等を補助しておりました。特に３年度実績欄の件数が多くなっておりますけれども、これにつきましては、緊急経済対策といたしまして、国の地方創生臨時交付金を財源に、このＩＴ化を推進するための補助事業を追加で実施しましたので、大変大きな補助件数となっております。なお、本年度から行っておりますＤＸ推進補助金につきましては、いわゆる「ＤＸ推進」と、パソコンやプリンターの購入によります「デジタル化推進」の２本立ての補助金となっております。特にＤＸ推進の方は、当初の見込みを上回る補助申請が出ております。今後、事業者から申請いただいた補助事業の実績報告が出てまいりますので、その辺の事業効果を改めて確認させていただくとともに、引き続き御用聞き型企業訪問という形で各支援機関と連携した企業訪問事業を行っておりますので、そうした中で事業者のＤＸを推進するためのアプローチに取り組んでいきたいと考えております。次に１つ飛びまして、１番下の１－⑥施策の方針「商工会議所・商工会と連携した小規模事業者等の伴走型支援」でございます。前橋商工会議所、また前橋東部商工会、富士見商工会とこれまでも色々連携して産業支援や雇用施策は進めてきたところですけれども、各個別事業の実績欄（６）にあります「経営計画実行補助金」を令和３年度から開始しております。これにつきましては、前橋商工会議所や商工会で、事業者の経営計画の作成支援、またフォローアップを行っている補助金でありまして、伴走型支援の取り組みとして事業者からも好評を得ております。なお、令和３年度の実績といたしまして、経営計画を作成し事業に取り組みましたのは、こちらに１９４社と記載がありますが、実際に補助金交付できたのは１９２社となります。なお、本年度のフォローアップの結果、６割を超える事業者において、この計画作成後において売り上げが向上したとの結果を得ております。こうした結果に繋がっている事業もございますので、引き続き前橋商工会議所や商工会の皆さんと連携を図りながら事業効果を高めていきたいと考えております。続いて、３、４ページにつきまして、雇用の関係で担当の係長から説明いたします。**【手嶋副参事】**雇用促進係長の手嶋と申します。よろしくお願いいたします。３ページに戻りまして、１－②施策の方針「中小企業・小規模事業者の人材育成支援」における施策の推進につきまして、Ｂという評価をさせていただいております。これにつきましては、個別事業（２）「就職先の紹介（ジョブセンター）」における就職先の紹介件数が令和２年度に落ち込み、令和３年度はさらに下回っているためです。原因といたしましては、若者・子育て中の方をメインターゲットにしているジョブセンターではコロナ禍で就労を控える子育て中の女性が多く、利用者数自体が減ったからと考えております。また、オンラインを活用した就職活動も一般的になってきたのも一因と考えます。安全に施設をご利用いただくために令和３年度からはウェブスタジオを作り、オンラインを活用することで就労支援を行うこととしております。就職先の紹介は減ってきておりますが、きめ細かなカウンセリングを行うことで就職決定数が若干上がってきております。次に、個別事業（３）「就職定着支援（ジョブセンター）」として、センター主催による講座の参加者数が令和４年度は減っております。令和３年度までは茶道や華道など複数回連続して行う講座が多かったものが、本年度から指定管理者が変更となり、スキルアップの場として定着支援講座を重視していることから、資産形成マネー講座など、単発的な講座が多く開催されたことで利用者数が減った結果となりました。今後の募集においてスキルアップの場としてだけでなく、仕事や職場の悩み、不安を相談できる場としての効果も含まれるような講座を複数連続して行っていくよう指定管理者と調整中です。数字には表れておりませんが、終了後のフォローとして定着支援講座の修了者に連絡を取り、カウンセリング等を行っております。次に、４ページ１－⑤施策の方針「事業所が必要な人材を獲得でき、市民が柔軟かつ意欲的に市内で働ける施策推進」につきましては、Ｂ評価といたしました。個別事業（４）「ＵＩＪターン若者就職奨励金」につきましては、就職者と事業者の両者に奨励金を交付する制度でしたが、活用する事業者が固定的となったこと、就職者のＵＩＪターンのインセンティブに繋がらなかったと判断したことから廃止といたしました。（７）「若者・女性の就職支援（カウンセリング）」、（９）「若者・女性の企業とのマッチング」、（１０）「若者・女性の企業へのインターンシップ」で、令和４年度実績が伸びていない原因としては、４月の指定管者変更により対応がうまくできていなかったことが原因と考えております。カウンセリングの件数は夏頃から８０～９０件前後に落ち着いてきておりますが、求職者がカウンセリングの回数を重ねることなく、できるだけ早く就職につなげるような内容を重視して行うことで、就職決定率を上げていくことになっております。企業見学やインターンシップは行われておりませんが、就労というものを身近に捉え実体験する場でもありますので、事業者と求職者の両者の状況が整い次第行えるように指定管理者と調整していきたいと考えております。なお、（５）「移住支援金」は、実績件数が伸びております。対象者が市内企業に就労した場合のみに限った支援ではございませんが、東京圏から前橋を選び移住した人がテレワークなどで意欲的に働き、市内で消費を行ってくれることから事業効果が高いと考えており、実績が伸びたことからプラス評価とさせていただいております。**【大谷副参事】**続いて、５ページに移らせていただきまして、１の最後の項目で、施策の方針「新型コロナウイルス感染症対策等に関する経済支援」となります。これにつきましては、コロナの影響や社会経済環境が悪化する中で、財源に国の地方創生臨時交付金を活用しながら緊急的な経済対策に取り組んでいる事業となっております。各個別事業の実績欄（１）「経営安定資金（再掲）」の経営安定資金融資を活用した資金繰り支援をはじめ、（２）の「小規模事業者集中支援金」では小規模事業者を広く支援するため一律５万円を給付するなど、それぞれの時期において必要とされる施策に取り組んでまいりました。中には、一時的な支援として行ったものや、将来の経営に繋がるような取り組みとして支援を行ってきたものもございます。本年度におきましては、（１０）「原油価格・物価高騰緊急支援金」を行っておりまして、建設業や製造業、運輸業など１２業者を対象として、売り上げが１０％以上減少していることを条件に一律１０万円を支給いたしました。この支援につきましては、記載の通り４，７３６件の支援を行っておりまして、これは対象となる業種の事業者総数のおよそ６割に相当する金額となっており、多くの事業者に利用をいただいたものと考えております。なお、今回は令和４年９月実績ということで、資料には記載をしておりませんが、光熱費の高騰と地球温暖化への対応が求められる中で「省エネ機器等更新補助金」というものを今月に実施しておりました。これについては、当初の予算７，０００万円ということで、今月の１日から申請を受けておりましたが、申請の件数が想定を上回る状況にありましたので、予算を倍増し１億４，０００万円という規模で事業を実施しましたが、これもすでに申請が上回ってしまったので、現在は受付を終了させていただいております。この申請内容につきましては、現在確認中ですが、多くはエアコンの買い替えと照明のＬＥＤ化という内容となっております。この補助金の成果につきましては、申請時に消費電力等のマイナス効果を算出して提出いただいており、このマイナス効果が大変大きなものになっておりますので、一定の事業効果が出ているものと考えております。**【宮内補佐】**コロナ対策の商業関連の事業者支援といたしまして、事業者の感染症対策の強化に関る経費を補助する（４）ニューノーマル創出支援事業補助金を令和２年度に、（９）ニューノーマル対応支援補助金を令和３年度に実施させていただきました。そのほか、（５）キッチンカー事業者支援補助金を通して、飲食店等が業態転換を図って実施するキッチンカー事業に対して支援をさせていただきました。そして、令和２年度と本年度も今まさに実施しておりますけれども、プレミアム付商品券の発行に取り組みましてコロナ禍での事業者の支援、それから消費喚起による市内経済循環の活性化を図っております。今回のプレミアム付商品券については、これまでと同じようにプレミアム率は３０％ですが、今回の発行総額が２２億７，５００万円と過去最大規模で実施をしております。現在は１次販売を終了いたしまして、１２月１日から２次申し込みを行う予定となっております。**【大谷副参事】**続きまして６ページに移りたいと思います。戦略２「各種支援機関等との連携による新製品・新技術の創出の進捗状況」となります。初めに２－①施策の方針「各種支援機関等との連携促進による新たな技術開発の推進でございます。各個別事業の実績欄（１）「新製品・新技術開発補助金」につきまして、補助金の交付実績等となっております。また、各個別事業（１）以下記載のメニューがいくつかありましたが、やや細分化されていましたので補助金の統合を行い、本年度に内容を一部廃止したものもございます。なお、この新製品・新技術開発補助金につきましては他の支援機関とも連携のうえ、各企業の技術開発における補助金申請案件をあげていただいているものになりますが、補助金活用のお問い合わせは来ているものの、なかなか申請までには至らないという状況が見受けられております。コロナ禍であるということも一因かと思いますが、利用が少し減少傾向にありますので、またここにお集まりの皆様や各支援機関等との連携を図らせていただきながら、事業者の需要の掘り起こしと、また使いやすい制度への変更を検討していきたいと考えております。続いて、２－②施策の方針「異業種間連携による、新たな価値を創造できる環境づくり」でございます。（３）産学官金連携推進会議（前橋商工会議所　実施）という項目がありますが、本年度は共催との形になっており、これについて、今年度は６月にぐんま未来イノベーション会議という会議を開催しております。前橋商工会議所と市内の大学として、群馬大学や共愛学園前橋国際大学、前橋工科大学等が主体となりまして、それに群馬県、前橋市、金融機関等が連携して取り組んだものとなっております。テーマとしては、ＤＸ、生産性向上、ＳＤＧｓといったものを重要テーマとして講演会や分科会を実施したものでありまして、ここに企業の皆さんにもご参加いただいております。引き続きこうした機会等を通じまして、目標にあるような産学官金連携、また、官民共創というものを進めていきたいと考えております。戦略２については以上となります。**【細野室長】**企業立地推進室の細野と申します。本日はよろしくお願いいたします。資料１の８ページです。戦略３「前橋にマッチした企業立地の促進の進捗状況」ということでございますが、３－①②③で具体的に数値が入っていないものがかなりあるかと思います。企業誘致セミナーや県主催の群馬企業立地セミナーなど具体的に立地を希望するような企業が集まるセミナーは、コロナ禍ということもありまして開催がなかったり、あるいはオンライン開催だったりということで、その機会がかなり少なかったということもあります。さらに具体的に進出を希望する企業に立地していただく土地、産業用地そのものが本市内に不足しているという状況もございます。それ故に、来ていただく土地がないというところで、セミナー等ＰＲの場への参加自体を見送っている状況でございますので、現状として資料１に記載する実績が少ない状況にあります。本市内は地震をはじめとする自然災害が比較的少ない優位性や、充実した交通機能、豊富な水資源・畜農産物等の特徴があります。これらをそれぞれ活かして首都圏からの企業のバックアップ機能や物流拠点、食料品製造業を立地したいところですが、産業用地が不足している状況ですので、これを解消すべく、昨年度の終わりから本年度にかけて、西善中内産業用地という前橋南部で公募を開始しましたが、大変ご好評いただけましてすぐに完売状態（現状は予約段階）となり、もう空きがない状態になってしまいました。そこで、次の産業団地ということで関越自動車道の駒寄スマートＩＣの西側に２０ヘクタールほどの産業団地を現在開発中でございますが、こちらは用地買収を開始したばかりで、地権者の了解を全員からいただいていない状況にあります。また、住宅や路地など移転が必要な物件がある状況でございますので、今後のスケジュールが見通せておりません。おそらく来年度の後半ぐらいにはある程度見えてくると考えておりますので、来年度には企業誘致セミナーや各金融機関が行っているビジネスマッチングなどに積極的に参加させていただきたいと考えております。８ページの説明は以上になります。続きまして９ページになります。３－④施策の方針「市内企業が市内で事業を継続できるように、操業環境、事業の拡張性を確保」は、市内の産業団地、工業団地に入っていただいております事業者の事業所拡張、工場を増築した時に利用できる事業拡張サポート補助金が（１）で、（２）は、市内の産業団地に入っていただく際の固定資産税や事業所税などを助成するもの、あるいは工場立地法の緑地規制を本市の条例で緩和している制度でございます。このような助成金を呼び水として活用し、進出企業をできるだけ増やしていきたいと考えておりますが、実績としては令和４年９月までの件数が結構入っておりますので、こちらの事業効果は出ており順調に進めさせていただいているということで、Ａ評価を付けさせていただいております。３－⑤施策の方針「新たな産業用地の確保、居抜き物件の紹介等による高度ＩＴ化企業を含む進出企業ニーズへの対応」につきましては、新たな産業用地の確保や既存の工業団地などの居抜き物件を、今後成長していく高度ＩＴ企業を含む企業進出ニーズに対しての対応を求められております。先ほども申し上げましたが、新たな産業団地ということで駒寄スマートインターチェンジの産業団地の開発を引き続き進めていきたいと考えております。さらに新たな産業団地として大胡・宮城地区にまたがる大前田・樋越というところ約２３ヘクタールを候補地として挙げさせていただいておりまして、令和３年度に開発の可能性調査を行いました。その結果、物理的に開発は可能ということでしたが、河川が遠い地区ということもあり雨水処理等開発費用がこれまでの産業団地と比べると高くなるという結果が出ました。そこを踏まえまして、本年度は企業からのニーズを探るために市場調査を実施しております。こちらの市場調査の結果を見まして来年度以降に開発に向けて進めていけるかを検討したいと考えております。また、本市内で新たな産業用地をどんどん開発していきたいところではありますが、市街化区域への編入などの都市計画上の調整や、国や県を含む農政部局との調整が大変難しい場合がありまして、自由に開発できるというものではありません。今後どのように産業用地を開発していけるかという検討も並行して進めていきたいと考えております。最後に（４）の居抜き物件の紹介につきましては、既存の工業団地の中で空き物件を調査し、所有者が他の企業に売却する意向があれば紹介するということを行っております。平成２８年度にその調査を一度実施し、本年度もまた市内の産業団地を対象に調査を行いまして、企業に紹介ができるように情報を整えてまいりたいと考えてります。戦略３につきましては、以上となります。**【大谷副参事】**続きまして、１０ページの戦略４「起業家の創出と人材支援の進捗状況」となります。４－①施策の方針「起業に際しての資金の支援、手続きに関する情報提供、ノウハウの習得の支援」の各個別事業の実績につきまして、（１）の創業に関する相談窓口の設置、これは産業政策課窓口と電話により相談を受けた延べ件数となっておりますが、記載の通り相談件数が年々増加している傾向にあります。また、前橋市創業センターなどでも現在相談が増えているような状況であります。この他、例えば（４）の起業家独立開業支援資金融資も令和２、３年と記載の通り増加しているような状況にあります。さらに、（５）の中小企業診断士による経営サポートや制度融資の利子補給や保証料補助が受けられる創業サポート総合制度も利用者が増加している状況にあります。また、（６）の開業３年以内における起業家の家賃支援でスタートアップオフィス支援補助金という制度がありますが、例年と比べて本年度申請は１９件と急増しており、全体を通して創業・起業に関する動きが非常に大きくなってきているような状況であります。令和３年度の創業実績になりますが、本市の支援を受けた人で、その中から実際に創業した件数を把握しておりますが、令和３年度では１２６件の創業がありました。令和２年度は１０５件でありましたので、この件数からも創業・起業に関する動きが活発化しているような状況にあると考えられます。こちらの産業振興ビジョンの中でも目標数値というのを掲げておりまして、この目標数値が１２２件でありますので、令和３年度におきましては、これを上回ったような状況となっております。次の４－②施策の方針「起業・事業承継に係る支援者（市、金融機関、支援機関等）の有機的な連携」の各個別事業の実績におきましては、関係支援機関等と連携した様々な取り組みを行っており、資料はそれらをまとめた内容となっております。関係機関の協力もあり、創業実績が上がってきているのではないかと思っております。創業・起業は、まちの活性化につながる大事な取り組みだと考えておりますので、引き続きこうした取り組みを続けていきたいと考えております。戦略４については、以上となります。**【手嶋副参事】**１１ページに移りまして、女性活用推進計画の進捗状況についてです。「女性の職業生活における活躍を推進するための支援」として、ジョブセンターまえばしを活用して事業を行っております。戦略１の個別事業の実績として報告させていただいたものと重なっておりまして、若者と子育て中の女性を対象としたジョブセンターまえばしの就労支援事業が本推進計画のほとんどを担っております。おおむね順調に事業を実施しているものの、まだ実績を伴っておりませんので現状として評価を下げたものとなっております。（５）の就職面接会等による就労支援につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響から中止、規模縮小しておりましたが、本年度より面接会、企業説明会として実施いたしました。事業者への応募は説明会終了後にハローワークのマイページから行えることから、面談のハードルが下がったようで、事業者と求職者ともに活発に意見交換が行われておりました。求職者が疑問や不安を解消した状況で応募ができる一方で、事業者からも求職者の生の声が聞くことができたと伺っておりますので、説明会を行った効果があったものと考えております。また、「仕事と家庭の両立のための環境の設備について」ですが、評価の理由としては、（３）保育サービスの充実として前橋子育て世代包括支援センターの窓口利用者アンケートの結果で、満足度が高かったこととともに、（４）放課後児童クラブの拡充として子育て世代の女性にとって仕事と家庭の両立を可能にし、就労を始めたり続けたりする上で、子供の預け先の確保は優先課題であることから、児童クラブの数が増加していることはそれに資するものであることから、評価の対象としております。以上になります。**【吉野課長】**各委員の発言後につきましては、マイクを職員が交換にお伺いします。使用後のマイクは職員にお渡しいただきたいと思います。それでは吉田委員長、よろしくお願いいたします。**【吉田委員長】**説明ご苦労様です。ただ今の説明について、意見等ありましたらよろしくお願いします。**【石川副委員長】**説明ありがとうございました。石川でございます。よろしくお願いします。各委員からも多分色々と質問・意見が出ると思いますが、私の方で口火を切りたいと思います。先に全体的なことで、冒頭の木村部長の挨拶にもありましたとおり、本ビジョンは５カ年計画ということで、まさにど真ん中、折り返し点に来たところで、この間はずっとコロナと重なっていてこの事業推進はかなり苦労されているだろうなと思いますが、２ページ全体の取り組み状況を見るとおおむね順調というのが８施策で約４割、そして６割が少し遅れているということについて、以前の協議会の資料を見てみると、最初の頃は７、８割が順調に進んでいるということで推移していたのですが、半年間ずつの経過を経るごとにこの辺が減ってきているのですけれども、今後の残り２年半の中でどういうところに取り組みを強化していって、目標を達成していこうとしているのか。ちょうど今、来年度の予算編成時期で、来年度の取り組み等も検討されていると思いますけども、その辺のところを教えていただけたらなと思いますのが、１点目です。それと、１－④施策の方針「事業所の生産性の向上に関する支援」について、ＤＸの補助金であるとか、生産性向上のための補助金について、かなり利用が多いと件数的にも思いますが、冒頭で吉田委員長が言われた通り利用件数ももちろんですけれども、それがどういう形で成果として上がったか、その成果の上がった事例をどういう形で整理・紹介しているのかを伺いたいと思っています。これは別の話になりますが、経営計画実行補助金で６割以上の利用者で売り上げが伸びたとか、あるいは、まちなかの店舗等開業支援等も行われて、かなり前橋の店舗も充実してきて、この間のＮＨＫニュースでも前橋工科大学出身の田中さんという人が伴走支援しているという内容を見ましたけども、そのような好事例的なものをやはりアピールしていく必要もあるのかなと思いますが、その辺はどのように取り組んでいるのか、その２点をお聞きしたいと思います。**【大谷副参事】**今おっしゃられたとおり生産性向上の取り組みの中で、特にＤＸに関しては本年度から取り組んでおりますので、実績を持ちまして具体的に成果を取りまとめ、こういった事例がありますというものを案内していきたいと考えております。また、御用聞き型企業訪問を通してＤＸに対する聞き取りも行っておりますので、サポートしている担当者から成果となった事例等を相談者にも紹介してもらうなど、少しずつでも展開できるように取り組んでいきたいと思っております。あとは、経営計画実行補助金につきましても、前橋商工会議所や前橋東部商工会・富士見商工会の皆さんのご協力をいただきながらフォローアップを行っております。売り上げの向上等事業者への効果を確認させていただいたりしておりますので、新たな取り組みに活用したり、次の施策に繋げていったり、現在活用されている事業者にとってもメリットがある仕組みを作っていきたいと思っております。なお、経営計画実行補助金は令和３年度から始めてフォローアップ体制が確立できておりますが、ＤＸ推進補助金についても、補助制度として少しずつやり方を見直したり内容を考えたりするなど取り組みまして、成果が見えるような形にしていきたいと思っております。**【石川副委員長】**ありがとうございました。そういう効果の上がった事例等は、市としても頑張っているというのもありますし、企業にとっても「こういう使い方でこういう成果が上がるんだ」という気付きにもなりますので、施策の分かりやすさも大切なことと思います。ぜひ、よろしくお願いします。**【大谷副参事】**確かに成功事例というのは、１つの鍵となってくると思いますので、内容を確認しながら進めていきたいと思っております。**【吉田委員長】**はい、ありがとうございました。他に何でも結構です。質問があったらよろしくお願いします。さっきの補助金の件ですが、ものづくり補助金は１，０００万円と補助金額が大きい代わりに、アンケート調査を取られます。補助金を支給する時にアンケート調査書を一緒に付けて回答しないと次は補助金の支給をしないと、そういうことをやった方がいいかなと思います。**【増田委員】**公募の増田でございます。よろしくお願いします。私は群馬県中小企業家同友会で政策の方も携わっております。先日４９社の同友会員にアンケートを取りまして、やはり一番厳しいのは、コロナ資金の返済と、あと電気代をなんとかしてほしいというのを皆さんから伺っております。また、いろいろ今企業誘致等もあるかと思いますが、既存の前橋市の企業が、これから誘致でどんな企業が入ってくるのか、あるいはＩＴやデザイン系といった企業の事業所が入ってもらえるのかということも気にしておりますので、前橋市がどのようにニーズ等の把握を行い、どのような形で実際の誘致につなげていくかということが気になっております。あとは、誘致にあたって、先ほども産業団地の開発がまだ間に合ってないというように、前橋工科大学の福田先生が「富士山が爆発したらみんなすぐ前橋・高崎に来る」という話をされたのを皆さん周知のことかと思います。この間、私も山梨へ行ってきたら、山梨でも富士山噴火説っていうのは、結構深刻なこととして考えらっしゃる方々も多いということで、そういったところに対して前橋の考え方がどんな形で表れてくるのかなと気になるところでございます。あと、雇用関係ですね。我々２０人規模の企業にはなかなか優秀な若者に入って来ていただけなくて、どういった方法があって、我々の方に人が来ていただけるようなチャンスがあるのか、本当に人に対しては大変な思いをしております。インターンシップなども高校や高専等でやらせていただいておりますが、いい学生がいっぱいいても、うちには１人も入ってくれない。雇用関係でそういう協力をしているのですけれども、なかなか恩恵に与れないというのが現状でございます。以上です。**【足立委員】**銀行協会の足立と申します。よろしくお願いします。先ほど石川副委員長から話があった２ページのＡＢＣ評価のＢが６２パーセントということで、いろいろと目立つのですが、その前の１ページを見て、前橋市は良い方向に進んでいるのか停滞しているのか、順調なのかというのを自分なりに見たときに、１ページで見ると、この真ん中の太枠の直近の状況というのが書いてございますが、この数字がビジョン改定時と比べて下がっているものが非常に多い。例えば、一番上（戦略１　指標①）のビジョン改定時は７０２人で、目標数値は横ばいですけれども、直近の状況では令和３年度は４５４人になっている。そういうことを一例として、ほとんど下がっているということと、あとはこの直近の状況というのは、例えば令和２年、令和３年とか、一番下（女性活躍推進計画　指標①～③）だと平成２９年度と書いてありますが、もう令和４年が終わるこの時期に直近と言えるのかどうか。新しい数字が取れないという理由があるかもしれませんが、その辺もどうなのかということを感じてしまいました。それで、ビジョンの改定時より状況が悪くなっているということは、理由がコロナ等いろいろとあるのでしょうが、取り組みが後退しているということなのではないかという不安を持ちます。ところが、今いろいろと説明していただいたり、後ろの情報（個別事業の実績等）を見てみたりしていると個別には結構やっているじゃないのというものもあるので、それも私は理解できないですね。だから、これが例えば個別には一生懸命市がやっているということですけれども数字に結びつかないというのが原因なのか、その辺りの考え方を知りたいと思いました。最後にもう１点だけ。５ページの一番上の表で、前橋市ぐんまＤＸ技術革新補助金とありますが、令和４年実績が０件となっていまして、資料を見ると名称が変わったということなのですけど、取り扱いがもうなくなってしまったということなのでしょうか。デジタル田園都市を標榜している前橋市としては、このＤＸと名の付く事業が０件だと、取り組みが後退したふうに感じてしまうので、一体どうしてなのか伺いたいと思います。**【大谷副参事】**最初に前橋市ぐんまＤＸ技術革新補助金につきましては、もともと群馬県の補助金でございまして、県の補助制度に各市町村が合わせているもので、県と市両方から半分ずつ補助金が出ている制度になっております。制度内容は県の方で改定したり、名称を変更したりしておりまして、本年度につきましては、いろいろとお問い合わせをいただいたのですが、実際の申請には至らなかったという状況でございます。**【足立委員】**では、県で受付をしている中で、前橋市の企業が申請したのが何件ということですか。**【大谷副参事】**申請自体は本市をはじめ各市町村で受け付けていますが、県の補助メニューに各市町村が相乗りして補助金を交付しています。事務的なことは市町村がやりますけれども、県担当者と一緒に実際の現場に視察・検査に行くこともあります。**【足立委員】**この制度は２～４社という実績数値と、その相乗りのやり方で実施しているということは、元々そんなに大きな補助制度ではないということですかね。**【大谷副参事】**その通りです。それから１ページの目標の中で、先ほどの直近の状況ということで、それぞれの数値が各種調査に基づいているものを拾っていますので、現状で追える範囲の数字というのを直近の数字として設定しております。令和３年度の実績がこちらで確認できているものは令和３年度ということになっておりますけれども、各種調査でしばらく調査結果が出ていない数値、例えば製造業の粗付加価値額や製造品出荷額等、そういったものはこちらで確認できている数値を今、最新の状況ということで書かせていただいております。ただ、この目標に掲げている各数値につきましては、この産業振興ビジョンという大きな計画の中で掲げてきたものなので、内容的にも大きな視点からの目標になっているところが実際にはありまして、市の施策と必ずしも連動しないというところも残念ながらあります。その中で具体的に事業をやっているものもあるという意見や、でも目標としてはどれも後退している、というのも現実であります。目標に掲げている以上はそれに向かうべきとは思っておりますが、さらに皆様からのご意見を伺いたく思っております。**【足立委員】**ビジョンの策定期間は５年間でしたか。この５年終わってその結果はどうでしたかという話をするときに、結果がそこからまた２年とか３年待ってから分かるというような、そういう類いの話になってしまうと思います。そうすると、ちょっと民間企業だとそんなことやっていられないということだと思いますので、その辺の工夫が今からできるかどうか分かりませんけれども、やらないと結果がどうだったのかということになりかねないと思います。もしくは、この辺を集中的に見てもらうなど評価の仕方を変えるとか。さっきのやっぱりこの６２パーセントの遅れている施策の巻き返しを今後の評価にしてもらうとか。何かこう見せ方を変えないと、委員も目標は何だったか迷ってしまうという不安を感じました。**【大谷副参事】**ありがとうございます。目標数値や評価についても考えさせていただきます。**【松田委員】**群馬県信用保証協会の松田です。私どもの立場は行政的な立場と、金融機関を通じた事業者のちょうど中間地点であって保証人という立場ですから、同じようなこういう会議を定期的にやっておりまして、似たような回答になります。どういうことかと申し上げますと、動いて企画した、あるいはこう実数を把握したと、片や結果はどうだったのか、結果について出てきたものが異常値であった時、あるいは全くできなかった時に、しっかりその辺の理由を把握してもらうと、できたらできた、あるいはできなかったのはこういうことが原因ですよという中で、現場の金融機関を通じていわゆる事業者の意見を聞いているかと、この辺がいろいろなところで話があります。具体的に言うと御用聞きで同じようなことを保証協会でもやっておりまして何百件、何千件とやっていますけども、実際に年間を通じて経営支援ができた件数は４件。これが多いか少ないか。では、少なかったら何が理由で少なかったとか、この辺をあまり突き詰めないですね。一般企業は結果を求められますから、そこについて必ずその異常値、目標が２０であるものが０であるとか、２０が１００であるとか、これは必ず企画をする担当が原因を突き止める。先ほど石川副委員長も仰ってましたけれども、良いことができた時に、当然その原因を突き止めて、なおかつ、その好事例をできなかったことに広げると、これが一つの推進サイクルのために必要なことだと思います。ただ行政とすれば受け取りの企画があったり、コロナや経済情勢があったりすると思いますが、片やとにかく動いて結果を出さなくていけないものもあると思いますので、そこのところは個々の係で実際の原因を突き止めていただいて、実際はどうだったのかを検証していただきたいと思います。例えば４ページの１－⑤（７）～（１０）の説明によると、実績が伸びていない理由として指定管理者の変更だったということをおっしゃられました。私からすると指定管理者の変更が原因とはどういうことなのかということもありますし、それは分かっていることなのに、なぜできなかったのかと。では、指定管理者にしっかりアプローチしたのかとこの辺も聞きたいと思います。やはり外的要因でできなかったのは、これはやむをえない。ただ、こちらのアプローチが足らなかった、あるいはタイミングが悪かったのならば、これは原因を突き止めていただいて、次に活かしていただく。先ほど足立委員も仰ってましたけども、期間の５年、６年あるものとはいえ、半年に１回は必ず全体で横串を入れてもらって、そこに対してできないものは修正していくと、これが大事であると思います。全般的な話で恐縮ですが、いくつか金融というところで、手前どももやはり同じような状況に陥っておりまして、なかなかお題目だけで進まないということが多々あります。ただ、ここをそのままにしない。もっと言えば、その時その時にしっかり原因を突き止めていただいて修正していくと、これをぜひお願いをできればなと思っております。私の方は、以上でございます。**【吉田委員長】**はい、ありがとうございました。いい意見が出てきていますので、ぜひよろしくお願いします。私の意見ですけれども、やはりあまり成果が上がってないのにＡ評価が付いているところもある感じがしますので、もう一度よく見ていただきたいと思います。**【細谷委員】**群馬県立産業技術センターの細谷です。８ページの戦略３で、前橋の企業誘致の進捗状況で数値が入っていないのは、セミナーがなかったとかウェブ開催だったというお話でしたが、ウェブ開催のセミナーも実績にカウントしてもよろしいのではないかと思います。実際ウェブセミナーに参加してみると、現地に行かなくてもちゃんと話が聞けて、自分のペースで聞けたり、理解ができてきちんと伝わっていたりすると思いますので、今の時代としてカウントしてもよろしいのではないかと思いました。それとあと、次のページで３－④（４）の空き物件の紹介については非常に重要かと思いまして、たまたま産業技術センターの北側が相当な年数動いていないと思いますが、中には転売されているところもあります。転売するにも条件があって、簡単には売れないということもあると思いますが、時代が変わっていく中で、条件の見直しについても逐次進めていただいて土地が有効活用できる方向に進めていただけたらなと思いました。以上です。**【細野室長】**ご意見ありがとうございます。個別の件で、亀里町の空いている土地ですけれども、建設計画がすでに決まっております。ご心配おかけして申し訳ございません。**【島田委員】**連合群馬前橋地域協議会議長の島田と申します。お願いという形になると思いますが、若者や子ども、あるいは１人親、女性をサポートする案件というのはかなりありますが、これからはジェンダー平等やＬＧＢＴに関するところをメインにしたサポートがあってもよいのかなと思いました。以上です。**【手嶋副参事】**ジェンダー平等に関しても、今の時代に合わせて進めていきたいと考えております。**【稲田委員】**前橋商工会議所の稲田でございます。企業立地の関係ですが、なかなか産業用地の確保が難しい中で、市内企業も事業所を拡張したい計画はあるけれども、その先の用地がなかなか見つけられないというお声もお聞きします。そういった企業も今の事業所から近い場所でという希望があるのですけれども、今計画されている駒寄スマートインターチェンジは少し遠いので、どちらかというと高崎の開発団地に出ようかなという話も聞きます。そうなりますと市内でも有力な企業が市外に出てしまうようなことになるともったいないというか、本当に前橋の産業にとって損失になります。やはり１種農地が多いので開発が難しいということを聞いておりますけれども、さっきの居抜き物件もそうなのですが、駒寄、大前田、その後をどうしていくのかという長期的なビジョン、産業用地の確保に対する考え方というものを持っていただきたいと思います。それから、御用聞き型企業訪問を活用して、市内企業にどういった希望があるのか、事業所を拡張したいのか、そういったことも前橋商工会議所の職員にもよく把握をして市の方にも情報伝達するようにという話をしておりますので、そういった情報収集にも努めていただければと思います。それともう１点。３ページの中小企業・小規模事業者の人材育成施策の推進というものがありますけれども、今まで人材育成というと、どうしてもセミナーの開催等がメインになりがちかと思いますが、中小企業の中で喫緊の課題として、例えばＤＸ推進とか、そういったものを進める中でＤＸに精通した優秀な人材がなかなか来てくれない、採用できないという問題があります。それで、社員のスキルアップということでセミナーをやるということになると思いますが、それもそのレベルに達するまでには全般的な内容での講義を聞いても各企業の実態に即した能力の向上が図れるかというと、なかなか難しいと思います。最近取り組んでいる企業も多いですけれども、副業や兼業を行う大企業の社員を採用・雇用する際に、宮城県や徳島県などの自治体が費用の一部を支援しているというような施策を取り組み始めた例もありますので、参考にしていただいて中小企業の人材育成やＤＸ推進などに、新しい施策を取り上げていただけるとありがたいなと思います。よろしくお願いします。以上です。**【細野室長】**大前田に続く産業用地の長期的なビジョンについてですが、具体的な動きとしてはまだありませんけれども、場所や手法の検討も併せて進めたいと考えております。おっしゃるとおり長期的なスパンにたって開発を進めていくべきと考えておりますので、よろしくお願いします。**【善野委員】**前橋工科大学の善野でございます。先ほど６ページの戦略２の新製品・新技術開発補助金というところの話になるかと思いますけれども、私どもは前橋の市立大学としてこの開発に向けていろいろとお手伝いができるという中で実際にやってきたところもございます。山本市長が初めて市長になった時に、私どもの大学に研究費として毎年３，０００万円を、前橋工科大学と地域の企業が共同で製品や技術を作りなさいということで莫大な支援をいただきました。その中でいくつかの事例にも関わらせていただきましたが、そういった動きもございまして、国で３年くらいだったと思うのですけれども、中小企業をどれぐらい支援しているかという大学向けの調査がございまして、おそらく８００校以上あるものと思いますけれど、前橋工科大学が全国で１位になりました。そういう形で言うと、地域の中小企業と一緒に技術・商品開発をしていくということをやってこられたという実績を経験できたということは非常にありがたかたというふうに思っておりますが、それが終了した現在、直近としてどれぐらいが支援できているか。これはまた眠っている状態に少し近くなっている状況もあります。来年の４月以降に福田理事長から２つの研究センターをつくるという話が来ていまして、実際にはまだ詳細が決まっていませんが、年度内に決定して４月から地域の方々の研究テーマを募集する形で、小型の共同研究というか、市長が提案された案件と同じというか、一回りぐらい小さな予算（年間４００万円くらい）で、あとは企業側で半分は出してもらって実現できる範囲でやっていきたいというふうに考えています。先ほどお聞きしましたが、コロナ禍でいろいろな企業が新しい技術開発を渋っている状況があって、少し減少傾向であるという状況のお話をいただいたので、前橋工科大学としては来年度以降にはなりますが、もう１度同じような形で支援を復活させていきたいというふうに思っています。それと、この前のＧメッセ（東和新生会ビジネス交流会）で前橋工科大学も参加させていただいたときに、経済産業省の北関東担当の方が来られて、「ＤＸ人材が基本的に取れない、人材不足というのが１番の問題なんだ」というお話をされておりまして、人材を採るというのはかなり難しい状態にあるとの話をお聞きしました。あのＮＴＴですら、ＧＡＦＡに人材を引き抜かれている状態になっております。地方の中小企業に至ってはさらに難しい状況にあるということですので、どうにか大学側でＤＸ人材育成を念頭に置いた地域企業の社員のリカレント教育で手助けすることができないかという提案をされました。人材をどうにか探そうと思っても、至るところで採り合いになっている状態ですので、私どもが情報系の教官を去年・今年と募集しておりますけれども、ほとんど採れない状態になっています。あとは半導体関係です。半導体関係の仕事に就く方が極端に少ない状況で、国としてはもう１回推進していきたいということを決めたらしいのですが、希望する人も極端にいない状況のようです。ＤＸ人材と同じで至るところで採り合いになっているので、どうにか半導体に関係する人材を育成できるような専門課程をやっていただけないかなというお話もいただきました。つまるところ、人材不足のところが今１番問題になっているということなので、そこのところの支援を大学としてやっていただければという話をいただきましたので、研究センターを来年度始めまして、皆さんにも利用していただきたいですし、私どもも一生懸命支援していきたいと思っていますので、今後もよろしくお願いいたします。**【堤委員】**前橋商工会議所女性会の堤です。よろしくお願いします。女性活躍推進計画の進捗１番最後の部分なのですけど、子育て支援合同企業説明会というのが、昨年コロナ禍のため中止だったのですけど、本年度は開催予定があるのでしょうか。なかなかうちの会社では、企業の見学会っていうのを開催できるほどの規模ではないので、そちらの方でお願いしたいなっていうこともあったのでどうでしょうか。**【手嶋副参事】**１０月４日に１度開催をさせていただいておりまして、また２月に開催する予定です。**【須田委員】**ハローワークまえばしの須田でございます。先ほどジョブセンターの利用者のお話があったと思いますが、ハローワークでも求職者に対してどのように支援メニューをお伝えしようかということで、いろいろと検討しておりまして、ホームページやＳＮＳといった媒体を利用しながら周知をしているところですが、ジョブセンターもＳＮＳを活用したり、子育て世代が多い場所とでの集中的な情報を発信していただいたりして、こうこうシーンでこういうところがあるというのを知っていただく取り組みが必要なのではないかと思います。**【狩野委員】**私の方からまずお礼と言いますか、国で小規模事業者向けの法律が明確にできてから制度ができて、それに合った形で国からは持続化補助金という形で支援が行われており、群馬県が全国１番の採択率を３年続けておりますが、全国的にその機運が高まる中で、どうも群馬県の採択率が下がり始めたその時期に、前橋市が経営計画実行補助金という形の受け皿になるような制度を作っていただいたことに非常に感謝しております。引き続きこういう形の支援をお願いしたいと思います。それと私の方から２点。１点は事業承継の話です。といいますのは、この計画の中にないわけではないのですが、どうも薄い気がいたします。どうしても今の状況、社会情勢を見ていく中で、先ほどお話ししたように、持続化あるいは伴走型という言葉に代表されるような支援を受ける小さな事業者にとっての事業承継というのは、いろんな形で出てくるような気がするのですが、いろいろなところでアンテナを張って、いろいろな方、確か前橋商工会議所の議員にも伺ったのですが、とにかくいろんな形の連携を使ってアンテナを張って、非常にデリケートな問題なので、その辺がまず上手にできるように事業承継に少しウェイトを置いた計画を立てていただければいいかなと思います。最後にもう１点ですが、先ほどお話したとおり小規模事業者が抱えている現状、中小企業が抱えている現状、大企業が抱えている現状はそれぞれ全くというか、全然違うグレードで広がっている中で、この産業ビジョン１本で全部を捉えようとすることに、どうも無理があるような気がします。資料でも市街地でＩＴ企業誘致とか、いろんな地域にしても、例えば私どもの富士見地区では、スローシティのエリアでやっていこうというような、いろいろな形の政策を出されるときに、それぞれの地域性もありますし、規模もありますし、目指していく先の産業の姿もあるような気がしますので、どうも一本化されて無理やり数値で押し込んでいくのに無理があるような気がしております。次のビジョンを作るときには、少し検討いただいてその辺をきちんと将来を描くことが必要ではないかと思います。その地域特有の産業構造というか、何かのビジョンがないと、そこに何が必要で、何がうけているのかというのがだんだん曖昧になってしまいます。それに向けての産業を誘致していくとか、例えば富士見であれば、移住と農地促進とそれに合った産業とかいろいろなものができるのではないか、みたいな形にならないと。委員にもいろいろな方に入っていただかなければならないことになってくると思います。今はいろいろと広がっているような気がしましたので意見として申し上げました。以上です。**【大谷副参事】**先ほどご意見いただいきましたとおり、ビジョンの考え方というのもいろいろと整理をする必要はあると思っております。また、現在の計画が５年間となっておりまして、いよいよ改定時期というものも近づいておりますので、そういった意見を含めまして、また、事業承継も大きな問題となっておりますので、他団体や群馬県等と情報交換させていただきながら、見直しに向けて検討を進めさせていただければと思います。**【西巻委員】**一般公募の西巻です。創業関係の相談を受けておりまして、コロナ前におきましては退職された方とか勇退された、いわゆる企業経験が豊富な方の創業とか起業とかは多かったような気がしましたが、最近は若者の起業の相談が非常に多い。彼らはこのコロナでできなかったから、今やらなきゃいけないというそういう動機というか起爆剤的な何かを持って起業を目指しています。それで、相談に来てくれる方々はよいのですが、ＳＮＳの情報発信とかＩｏＴ関係とかは得意ですけれども、地域と繋がるということが非常に弱いというか、例えば隣でイベントやっていても、その開催を知らないとか、そういう人との繋がりっていうのは非常に弱くて、それで資金繰りでも金融機関へ相談に行けないまま苦しんでいるということもあります。そういうところに関しては、先ほど御用聞き型企業訪問などを活用しながらできればいいのかなというところがありました。それと、先ほど狩野委員がおっしゃっていた事業承継については、令和５年度中に納税猶予の申請期限が迫ってきていますので、結構逼迫した問題ではないかなと思っております。以上です。**【大谷副参事】**先ほどと同じようなことになりますけれども、事業承継につきましては今後の対応を検討させていただきたいと思います。あと、創業に関しては、創業センターで大変お世話になっておりますけれども、やはり若者の観点も大切ですし、いろいろな交流を持ってもらったり、経験をしてもらったりというところもありますので、そういったサポート体制についても検討していきたいと思います。**【唐沢委員】**群馬若者サポートステーションの唐沢と申します。厚生労働省の委託事業で、１５歳から４９歳の無業の方の就労支援をしており、ハローワークや前橋市と協力しながら進めているところでございます。本日は会議のいろいろな意見を聞かせていただいて、創業者、起業家の支援の数がかなり上がっているというところと、人材不足という話が出てきました。ＤＸに関する人材ばかりではないと思いますが、我々も支援をしていて製造業や物流業というところでも人材不足というのもすでに聞いています。そういったところを考えてみて、さらにジョブセンターの利用というのは、これまたいろいろな理由もあると思いますけれども、数が減っているというところでございます。この中でも、私としてはウェブスタジオの新設というところをかなり注目しておりまして、求職者も就職するときの情報を集めるツールがかなり変わってきていますので、その辺の利用というのがこれからどれぐらい伸びていくのかなというところでかなり興味を持っております。ぜひ、数が伸びるといいなと思っております。この一環として、雇用の部分とか人材の部分なのですけれども、資料３～４ページ１－②とか１－⑤になりますけれど、人材育成とか人材の定着という企業の個別の課題に対したものになると思うのですが、人材の定着支援という部分で、これまでのところ、定着支援で言うと就労者に向けて個人的にやっていくということが主だったと思いますが、私どもの就労支援事業を通しまして就労者本人に行う支援も大事ですけれど、企業にも支援をしていく。我々が支援者として企業をサポートしていると結構離職率が低くて、定着もいつも８～９割の状態です。企業と関わらせてもらっていると、そういう結果も出ているのかなと感じています。そういったところで前橋市としてはこの定着支援において、何か企業との連携とかその辺の施策というのは、実際やっているのか、あるいはこれから考えているのか紹介いただけますか。**【手嶋副参事】**定着支援における企業との連携というのは、今のところ行っていない状況です。今お話伺いまして、今後検討を進めていかなければいけないというふうに考えております。**【吉田委員長】**ありがとうございました。全員からご意見いただきましたので次に移りたいと思います。次第の「５　その他」について事務局から事務局から説明をさせていただきたいと思います。**【大谷副参事】**本日、協議会を行いまして、もう次の話をさせていただいて申し訳ありませんが、年度末に本年度２回目の協議会を開催させていただきたいと思います。日にちを決定しているわけではございませんけれども、次回の開催につきまして、来年２月後半を目安に開催させていただければと思います。あともう１点、委員の改選についてですが、現在の任期につきましては、来年３月３１日までとなっております。ここで一旦、委員の任期が来るような形になりますので、できればその後、令和５年度からまた３年間について新たに委嘱をお願いしたいと考えております。新たな期間は令和５年度から３年間ということになりますが、産業振興ビジョンの計画期間が、現在２年度から６年度までという形になっておりますので、次回の改定時期も含まれることになります。委員の皆様には引き続きご協力をお願いしたいと考えております。現在、事務的にすぐに皆様の団体への推薦依頼等を行うということではないのですが、あらかじめお話をさせていただきました。事務局からは以上です。**【吉田委員長】**ありがとうございました。議事録を作成して、配付をお願いします。以上で今日全ての日程が終了しましたので、議事を終了します。ありがとうございました。**【吉野課長】**吉田委員長、進行ありがとうございました。それでは以上をもちまして、第２１回前橋市産業振興ビジョン協議会を終了させていただきます。本日はお忙しい中、ありがとうございました。（終了） |